

【小・中学生の部受賞作】

りゅうじんはなぜあかつかためいけにやってきたのか

板橋区立桜川小学校1年 おのざわ ゆりか 小野澤 百合香

ことしのなつは、ザリガニつりにはまりました。ちかくのあかつかためいけこうえんはザリガニがつれるときいていってみました。ふかみどりいろににごり、そのみえないいけにえさのするめをつけたいとをたらすと、ものすごいちからでえさだけもっていかれてしまいました。ちちは「ザリガニではなく、おおきなさかなのしわざだろう。」といいました。あるいは、ほかのなにかぶきみなものかもしれません。あかつかためいけには、なにがいののだろうかときになりはじめました。

そふにあかつかためいけについてきいたところ、『いたばしの昔ばなし』というほんをかしてくれました。そのほんには「あかつかためいけのりゅうじんさま」のはなしがのっています。

いつのじだいかわかりませんが、こうずけのくに（いまのぐんまけん）に、おかだはやとのかみというさむらいがいて、しろのちかくのぬまのりゅうじんに、いくさにかつよういのっていたそうです。このりゅうじんは、ぶんしんをいたばしくのあかつかためいけにうつりすまわせました。しかし、あかつかためいけのぶんしんは、おいしいをなげこまれてひんしのじょうたいになってしまいます。そこで、ぐんまでりゅうじんしんこうをしているひとびとのゆめに、りゅうじんのぶんしんがあらわれてたすけをもとめました。しょうわ49ねん8がつのことです。ぐんまのひとたちは、あかつかためいけにやってきてくようをして、ぶじりゅうじんをすくい、いたばしのひとたちにこれまでのいきさつをつたえました、とほんにはかいてありました。

これで、あかつかためいけにすんでいるのは、りゅうじんだということがわかりました。しかし、なぜはるばるぐんまからあかつかためいけにぶんしんがきたのかは、ほんにはかかれていませんでした。わたしは、ぐんまにあきてほかのばしょがみたくなつたのかな、とそうぞうしました。

なぜあかつかためいけにうつってきたのか、もっとしらべてみたくになりました。そもそもりゅうじんとはなんでしょうか。ははといっしょに『図説・龍の歴史大辞典』でしらべてみました。

りゅうは、なら・へいあんじだいいぜんは、あめやかみなりをあやつるすいじんとしてうやまわれていました。それがかまくらじだいになると、りゅうのつよさやれいよくにあやかろうとしたぶしによって、ぐんしんとしてもんのデザインなどにつかわれるようになったそうです。

つぎに、あかつかのれきしを、いたばしくりつきょうどしりょうかんについてしらべてみました。あかつかためいけのすぐよこにあったあかつかじょうは、せんごくじだい、ちばしというぶしがおさめていたことがわかりました。このじじつからよそうできるのは、

ぐんまのりゅうのぶんしんは、ぐんしんとしてちばしをたすけるためにあかつかためいけにうつりすんだのではないかということです。

また、きょうどしりょうかんのしりょうから、めいじじだい、すいでんがかいこんされて、あかつかはいたばしくのなかでも、いちにをあらそうこめどころとなったことがわかりました。このじじつからよそうできるのは、すいじんとしてすいでんをまもるために、りゅうじんはあかつかためいけにうつりすんだのではないかということです。

あかつかじょうをまもるためか、すいでんをまもるためか、どちらのりゅうでうつりすんだのかかんがえてみました。もともとのぐんまのりゅうじんは、いくさのためにまつられていたことから、わたしはあかつかじょうをまもるため、ぐんしんとしてうつりすんできたのではないかとかんがえます。そのあと、えどじだいにしろがなくなり、めいじじたいにすいでんがふえると、すいじんとしてのやくわりにかわったのではないのでしょうか。

ザリガニのえさをうばわれたことが、りゅうじんのそんざいにきづくきっかけとなりました。このなつのけいけんから、ザリガニはそこがみえるほどとうめいないけのほうがよくつれます。すいじんとなったりゅうじんがくらしいけのそこから、しぜんをたいせつにし、うやまうことのたいせつさをつたえようとしているとかんじました。

参考文献

板橋区教育委員会事務局社会教育課編『いたばしの昔ばなし』板橋区教育委員会、1978年
笠間良彦『図説・龍の歴史大辞典』株式会社遊子館、2006年

ふみきりごやのしょうたいをしらべる

板橋区立金沢小学校1年 さかきばら ちかし 榊原 睦

①ぼくは、ちいさいころからふみきりがだいすきです。ようちえんのときに、きんじょのふみきりや、となりのいろいろなふみきりをしゃしんをとったりしらべたりしたことがありました。

②ふみきりには4しゅるいあります。

- 1、だい1しゅふみきり…けいひょう、けいほうとう、しゃだんき（じどう）がある。
- 2、だい2しゅふみきり…けいひょう、けいほうとう、しゃだんき（ひとがうごかす）がある。
- 3、だい3しゅふみきり…けいひょう、けいほうとうがあるが、しゃだんきがない。
- 4、だい4しゅふみきり…けいひょうしかない。

③ことしの2がつに、ぼくはいたばしくへひっこしてきました。ぼくのいえのちかくにはじゅうじょうえきのおおきなふみきりがあります。じゅうじょうどうふみきりという、さいきょうせんがとおるふみきりです。そのふみきりのまえに、ちいさなこやがあります、ぼくは、このこやがきになりました。もしかしたら、いまはもうにほんにない、だい2しゅふみきりのふみきりけいしゅさんがいたこやかなとおもったからです。ぼくはこのこやとふみきりが、むかしのままのこっているのかもしれないとおもい、しらべることにしました。

④だい2しゅふみきりがにほんになくなったのは、むかしのかなしいじこがりゆうです。そのじこは、でんしゃがなんどもきて、まっているひとたちが「はやくあけてください」とけいしゅさんにおこったため、けいしゅさんがしゃだんかんをあけてしまい、でんしゃがきてじこがおきてしまいました。

⑤いつからだい2しゅふみきりがなくなったのか、こくどころつうしょうにでんわできいてみました。JRひがしにほんでは、しょうわ59ねんにはさいごの7かしょしかありませんでした。しょうわ60ねんには、もう0かしょでした。さいごの7かしょはどうなったのかというと、だい1しゅにかわったか、ふみきりがなくなったかのどちらかだそうです。いまでは、ふみきりはひとがうごかすのではなく、ぜんぶじどうでうごくようになりました。

⑥じゅうじょうのふみきりごやは、なんのためにあるのでしょうか。JRひがしにほんにでんわできいてみましたが、「ほうはんじょうのりゆうで」おしえてもらえませんでした。なので、じゅうじょうえきのえきいんさんにきいてみました。

⑦えきいんさんは、「ほんしゃにといあわせてみます」といって、しらべてくれました。そして、「もともとじゅうじょうどうふみきりは、だい2しゅでした」とおしえてくれました。このふみきりは、むかしもいまも、こうつうりょうがおおく、ひともたくさんわたるので、きけんなふみきりだそうです。いまは24じかんえきいんさんがこやにいて、ふみきりのなかにくるまやひとがのこってしまうとあぶないので、かんししているのだそうです。

⑧ぼくはとしょかんへいって、むかしのじゅうじょうどうふみきりがどうだったか、DVDやほんがないか、しらべてみました。じゅうじょうえきはきたくなので、きたくちゅうおうととしょかんにいきました。ほんはありませんでしたが、としょかんのひとが50ねんくらいまえのしゃしんをみせてくれました。いまとはちがうばしょでしたが、ふみきりごやはちゃんとありました。ぼくは、「わあ、いまでもむかしのふみきりのなごりがあったんだ」とおどろきました。ぼくはだい2しゅふみきりをみたことがないので、むかしのふみきりが、いえのちかくにあったんだとうれしくなりました。

⑨じゅうじょうえきのえきいんさんは、「いずれじゅうじょうどうふみきりはなくなって、こうか（でんしゃのせんろをどうろのうえにとおして、くるまとでんしゃがおなじばしょをとおらないようにする）になります」といっていました。こくどこうつうしょうのひとも「いずれはにほんのふみきりは、ぜんぶなくすことをかんがえています」といっていました。ぼくはふみきりがすきなので、がっかりしました。

⑩なぜふみきりはなくなるのかというと、ふみきりはみんなのあんぜんをまもるためのものでも、じこがおきてしまうことがあるからです。じゅうじょうえきのえきいんさんも「24じかんかんししていても、ふみきりのなかのにこされてしまうひとが、まいとしいってすういます」といっていました。やまのてせんさいごのふみきりも、なくすけいかくがはじまったそうです。もしかしたら、ぼくがおとなになるまでには、ふみきりはぜんぶなくなってしまうとおもいます。でも、いのちをまもるためなのでしょうがないとおもいます。いまあるいちばんあたらしいふみきりも、いつかはなつかしいきちょうなふみきりになるかもしれません。

参考文献

小川 裕夫『踏切天国』秀和システム、2010年

伊藤博康『最新調査 日本の“珍々”踏切』東邦出版、2010年

図1：50ねんくらいまえの、じゅうじょうどうふみきり。 いまとちがうばしょにこやがあります。



図2：いまのじゅうじょうどうふみきり。こやに、ふるいかんばんがついています。



写真：北区立中央図書館提供

沖縄の言葉と歴史について

板橋区立板橋第五小学校 4年 たなか いくほ 田中 育穂

私の部屋には、あいうえお表があります。そのあいうえお表には、「うちなーばん50音表」と書かれています。「うちなー」とは、「沖縄」のことです。例えば、「い」だと、「いゆ」と書かれていて、魚の絵がかかれています。また、「ち」だと、「ちんなん」とかかかれていて、かたつむりの絵があります。私は、どうしてこんなに言葉がちがうんだろうと思いました。

私は、沖縄で生まれました。お母さんの実家が沖縄にあるからです。沖縄の言葉のことをおばあちゃんに聞いてみました。

昔、沖縄県は、「琉球」という一つの国でした。小さな国ですがアジアの海の世界で、ぼうえきをして栄えていました。しかし、1609年、突然琉球王国に、今のかご島県がせめてきました。そのときから琉球王国は、日本の支配をうけることになりました。そして、1868年、日本の明治政府によって琉球王国の王様は東京へ連れて行かれました。その後、琉球王国はなくなり、日本の「沖縄県」として組みこまれました。その後、沖縄にとって大変な食料不足の時代がやってきます。貧しさのあまり、多くの沖縄の人々が働き場所を求めて島をはなれました。しかし、新しい場所で大変な差別を受けました。このような体験から、沖縄の人は、他のどの県の人よりも、完全な日本人になろうとしたのです。そうすることによって、差別からのがれようとしたのです。こうした沖縄の人たちの思いを利用して、日本政府は「方言ぼくめつ運動」を進めました。

私のひいおじいさんのお話です、ひいおじいさんは、お医者になるために、沖縄から愛知県の大学へ行きました。初めて沖縄をはなれて、とてもさびしかったそうです。りょう生活をしていましたが、りょう母さんや、ルームメイトに沖縄の人だと知られないように、沖縄の言葉の話さないように努力していたようです。そのような生活を送っている中、とても楽しみにしていたのは、おじいさんのお母さんが、たまに沖縄から送ってくれる小包みでした。小包みには、お母さんの手作りのおかしが入っていたそうです。ある日小包みが届いてワクワクしながら開けようとしたとき、下から、りょう母さんの足音が聞こえてきました。そのしゅんかん、おじいさんは、とっさに沖縄からの小包みを2階のまどから投げ捨てたそうです。

この話を聞いて私は、こんなにワクワクして受け取ったお母さんからの大切な小包みを投げるなんてびっくりしました。遠い沖縄からのきちょうなおくり物を、なんてもったいないことをするんだろうと思いました。でも、それだけ沖縄の人が、沖縄以外の場所で生きていくのは大変だったんだと驚きました。そうやって必死で差別から身を守っていたおじいさんのことを思うと、悲しい気持ちになりました。

普通は、自分たちの国の言葉を守りたいと思います。でも、自分たちの言葉を捨ててま

沖縄の言葉と歴史について

板橋区立板橋第五小学校 4年 田中 育穂

私の部屋には、あいうえお表があります。そのあいうえお表には、「うちなーばん 50 音表」と書かれています。「うちなー」とは、「沖縄」のことです。例えば、「い」だと、「いゆ」と書かれていて、魚の絵がかかれています。また、「ち」だと、「ちんなん」とかかれています、かたつむりの絵があります。私は、どうしてこんなに言葉がちがうんだろうと思いました。

私は、沖縄で生まれました。お母さんの実家が沖縄にあるからです。沖縄の言葉のことをおばあちゃんに聞いてみました。

昔、沖縄県は、「琉球」という一つの国でした。小さな国ですがアジアの海の世界で、ぼうえきをして栄えていました。しかし、1609年、突然琉球王国に、今のかご島県がせめてきました。そのときから琉球王国は、日本の支配をうけることになりました。そして、1868年、日本の明治政府によって琉球王国の王様は東京へ連れて行かれました。その後、琉球王国はなくなり、日本の「沖縄県」として組みこまれました。その後、沖縄にとって大変な食料不足の時代がやってきます。貧しさのあまり、多くの沖縄の人々が働き場所を求めて島をはなれました。しかし、新しい場所で大変な差別を受けました。このような体験から、沖縄の人は、他のどの県の人よりも、完全な日本人になろうとしたのです。そうすることによって、差別からのがれようとしたのです。こうした沖縄の人たちの思いを利用して、日本政府は「方言ぼくめつ運動」を進めました。

私のひいおじいさんのお話です、ひいおじいさんは、お医者になるために、沖縄から愛知県の大学へ行きました。初めて沖縄をはなれて、とてもさびしかったそうです。りょう生活をしていましたが、りょう母さんや、ルームメイトに沖縄の人だと知られないように、沖縄の言葉を話さないように努力していたようです。そのような生活を送っている中、とても楽しみにしていたのは、おじいさんのお母さんが、たまに沖縄から送ってくれる小包みでした。小包みには、お母さんの手作りのおかしが入っていたそうです。ある日小包みが届いてワクワクしながら開けようとしたとき、下から、りょう母さんの足音が聞こえていました。そのしゅんかん、おじいさんは、とっさに沖縄からの小包みを2階のまどから投げ捨てたそうです。

この話を聞いて私は、こんなにワクワクして受け取ったお母さんからの大切な小包みを投げるなんてびっくりしました。遠い沖縄からのきちょうなおくり物を、なんてもったいないことをするんだろうと思いました。でも、それだけ沖縄の人が、沖縄以外の場所で生きていくのは大変だったんだなと驚きました。そうやって必死で差別から身を守っていたおじいさんのことを思うと、悲しい気持ちになりました。

普通は、自分たちの国の言葉を守りたいと思います。でも、自分たちの言葉を捨ててま

で日本人として同化しようとしたのは、沖縄がかつて一つの国だったからこそだと感じました。日本とのかべが大きく、ちがう民俗として差別されたことと感や、必死に自分たちを守るためだったんだなと思います。

現在、国連のユネスコでは、「消めつが心配される言葉」として、沖縄の方言をあげています。むしろ、一つのどく立した言語とあつかうべきとして、学者の中にはイタリア語とスペイン語以上のちがいがあると言っている人もいます。民芸家のやなぎむねよしは、沖縄語を価値の高いものとみなし、強制的に政府が進める「ひょうじゅん語運動」をひはんしました。「沖縄の言葉はきちょうである。言葉がほろぶとき、民族もほろんでしまう。」と。でも、そうしなければならぬ沖縄の人たちの苦しい選択には悲しい歴史があったのです。

私は今、沖縄の言葉を守りたいと思います。おばあちゃんに沖縄の言葉を教えてもらっています。沖縄の言葉を守ることは、沖縄の人たちの心や歴史を守ることになると思うからです。

では、出井川の場合はどうなっていると思いますか？私はそのヒントがないかな？と、本を参考にしながら水源である「出井の泉」から新河岸川まで、かつての出井川を辿ってみました。

スタート地点の出井の泉には井戸らしきものが2つ、池らしき場所が1つ残っていましたが、湧き水などは見た目では確認できませんでした。川だったところを辿っていると水の流れる音がしたり、道が川筋のようにくねくねしていたり、かつて橋があった場所は今は横断歩道になっているところが多かったり、小さな坂を上り下りしていて高低差がありながら流れていたと感じました。また、「出井川橋梁」や「新小袋橋」という欄干やプレート、川があったであろうところはブロックで仕切られていたり、新河岸川には出井川の出口のような河口も見えました。そして、いつも通る桜並木も公園へ続く道も川の上だったことを知り、意外と身近にあって凄く驚きました。

しかし、見た目では川がどうなっているか知ることができず、区の土木課の方に聞いてみると残念ながら現在は下水道管が入っていて川は流れていないとのことでした。私が聞いた水の音は、下水が流れる音でした。ちなみに井戸は故障してしまっていてくみ上げることはできない状態ですが、今でも湧き水があり水位を観察しているとのことでした。

今回私は出井川について調べてみて、人と水とは深い繋がりがあるのだなと思いました。川があったから人が住み始めて田んぼや野菜を作っていたり、名水として色々な人が書き記したり、昔ばなしにもなりました。工場も川が近くにあるから建ったのだと思います。するとまた人は集まってきます。でも、人の手で川を汚染してしまいました。魚もいなくなり、病気になる人もでて邪魔者扱いにされていたそうです。都市化の影響で暗渠になりましたが、今は下水道として生活に密着しています。そして、出井川が暗渠になって50年以上経ちますが、川や自然を大切にしなければならないと人々は気付いて、ごみの捨て方を工夫したり、水質管理をしたりして、守ろうとしていると思います。これから先もきっと人が住み続けると思うので、自然と住まいの環境を守ることと共存が大切なのでは、と思いました。出井川はもう戻らないけれど、今残る板橋区の川は残していきたいと思いました。それができるかどうかは、きっと今の私たちがこれからどうしていくかで決まるような気がしています。自分にとって便利なことだけを考えるのではなく、何かのために、誰かを思って行動することが、自然もまちも人も守れることに繋がればいいなと思いました。

参考文献

『遊歴雑記』

『新編武蔵風土記稿 第1巻』

『志村郷土誌』1932年

『郷土 清水』

黒部溪三『板橋ものがたり 史跡篇』板橋ものがたり刊行会、1964年
東京都板橋区教育委員会編『いたばし風土記』板橋区教育委員会社会教育課、1975年
東京都板橋区教育委員会事務局社会教育課編『いたばしの古道』東京都板橋区教育委員会、
1983年
同上『いたばしの河川』同上、1986年
敬順著、大島建彦ほか編『遊歴雑記 別巻』三弥井書店、1995年
板橋区教育委員会社会教育課編『いたばしの史跡探訪』板橋区教育委員会、1996年
いたばしまち博友の会『郷土 板橋の橋』1998年
太田稔『重ね地図シリーズ東京 マッカーサーの時代編』光村推古書院、2015年
『板橋区の昭和 写真アルバム』いき出版、2017年
本田創『東京暗渠学』洋泉社、2017年

お世話になった方々

- ・ 学童誘導員の鈴木さん
- ・ 板橋区土木課占用係の担当者の方
- ・ 板橋区立志村図書館の方
- ・ 板橋区立郷土資料館 学芸員の中村さん
- ・ 板橋区立中央図書館の方
- ・ 板橋区役所区政資料室の方

どんどん焼きのこれから

板橋区立板橋第四小学校 5年 ^{やさき あきと} 矢崎 瑛

「こしょうがつ どんどんやきで あたたまろう」これは行事カルタの中にある読み札の1つです。ぼくは、家族でカルタをしているときに、どんど焼きという行事があることを知りました。母の地元（茨城県）では、「どんど焼き」といって、小正月1月15日にちかい土曜日の夜に地域の田んぼで行われるので、小学生のときは毎年行っていたそうです。田んぼにはわらがうず高く積まれていて、お正月かざりや神棚にそなえただるまなどといっしょに焼いて、感謝の気持ちを込めて空に返すとともに、無病息災や五こく豊じょうを祈る行事であると教えてくれました。どんど焼きの会場である田んぼには、長いしの竹が何本も用意されていて、その日学校で配られた丸もちをその先にさして焼いて食べる楽しみもあったそうです。祖母にどんど焼きのことを聞いてみると、祖母の生まれ育った地域は茨城県内なのに、「どんど焼き」と呼んでいて、やっている内容は大体同じでも呼び方に違いがあることがわかりました。そして、ほかの地域ではどのようなのが気になりました。また、無病息災を願う行事なので、コロナウイルス感染症の不安があるいまだからこそ中止にせずやるべきなのではないかと思い、調べることにしました。

まず、どんど焼きは、どんど焼き、とんど焼きと呼ばれている地域が多く、近畿・北陸・東海では左義長と呼んでいること、北海道から沖縄県まで全国的に行われていることがわかりました（福田他、2002）。また左義長の説明から、平安時代から行われている宮中行事で、悪ま払いのぎ式だったこともわかりました（新谷、2007）。つぎに、どんど焼きが今年も行われたのかをインターネットで調べました。これは家族に手伝ってもらってやりました。「どんど焼き 左義長 都道府県名 2021」と入力し、47都道府県について、1カ所でも行われていたら白地図に色をぬりました。神社ではなく、地域の人たちでやっているものを選びました。神社で行われている場合や中止を除いて、24都県に色がぬれました（図）。さいの神、とんど祭り、ほんげんぎょう、さぎっちょ、どんどや、鬼火たきという名前で行われている地域があることもわかりました。

ここまで調べてみて、ぼくは、宮中行事が一般の人たちの行事にまで広がったのはなぜなのだろうと興味をもちました。また、1学期にSDG'sについて勉強して、世界中で環境保護につながる活動が行われているのに、どんど焼きはわらやしめ縄、だるまなどを焼くので、それが全国的に行われているのは環境に悪いのではないかと思いました。そこで、①地域で行われるようになった理由、②どんど焼きについて小学校で教えていること、③どんど焼きを続ける難しさについて、母の地元の公民館に聞きに行くことにしました。

公民館では、館長さんと職員さんが対応してくれました。①は、むかしは医学がなかったので神だのみをしたのがもとで、自分たちでもできる形で行われるようになったのでは

ないかということでした。稲わらやお札を積んで火をともしことは尊いことで、「尊」がなまって「どんど」、「どんどん」となりました。稲わらを束ねた「わらぼっち」を積み上げたやぐらをつくり、もちを焼いて、無病息災、家内安全、子孫はんえい、商売はんじょう、五こく豊じょうなどを祈りました。②は、一年間神棚にそなえた、だるま、お札、しめ縄にお礼をする行事であるということでした。③は、どんどん焼きをやるには、田んぼを貸してくれたり、わらぼっちを用意したりしてくれる農家の協力が必要、少子化や過疎化が進み準備をする人が減っている、これらを理由にやめる地域が増えているそうです。わらぼっちを燃やすときに、お正月かざりについているみかんなど、プラスチックやはりがねが混ざっていることがあり、有害なガスを出してしまうこともどんどん焼きを続けるのを難しくしているとわかりました。

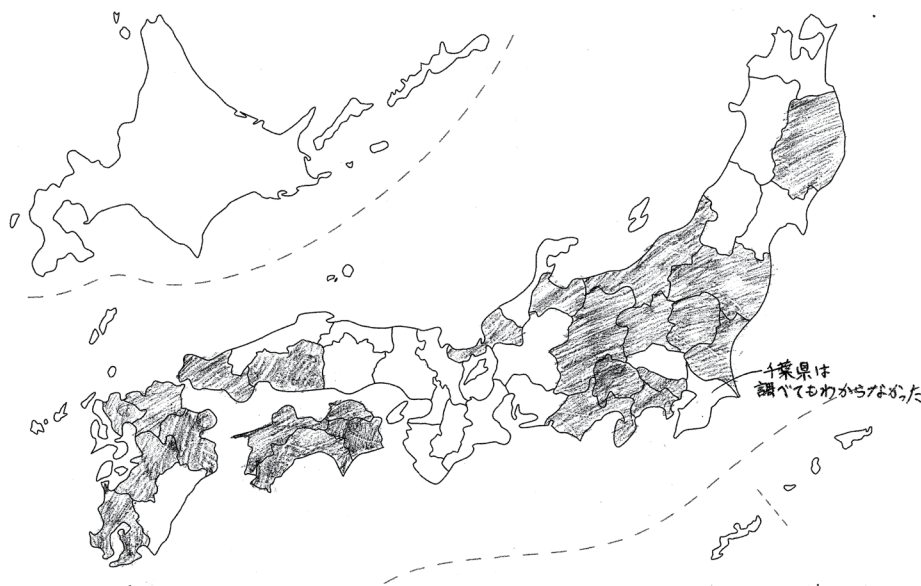
ぼくは、むかしからある行事は次の世代に伝えていくものだと思っていました。しかし、具合が悪いときに神だのみをしていたのが、医学が進歩して病院に行くようになったのと同様に、社会も変化しているので、必ずしもむかしからある形で残さなくても良いのではないかと考えるようになりました。科学技術が発展したので、きれいな状態の写真や動画で伝統行事を残すことができます。このように、色々な工夫を通して、むかしからある行事を伝えていくとともに、自分たちの大切な地域の環境も守っていきたいと思います。

参考文献

福田アジオ・菊池健策・山崎祐子・常光徹・福原敏男『知っておきたい日本の年中行事事典』、吉川弘文館、2012年

新谷尚紀『和のしきたり—日本の暦と年中行事』、日本文芸社、2007年

図 2021年1月にどんどん焼きや左義長などを地域で行った都道府県調査



ぜんこくの「どれにしようかな」

板橋区立金沢小学校1年 かわち さとが 河内 里香

わたしはどれをえらぶかまよったときに、「どれにしようかな。てんのかみさまのいうとおり。なのなのな」といいます。さいたましゅっしんのおかあさんは「どれにしようかな。てんのかみさまのいうとおり。あべべのべ。てっぼううってバンバンバン。もうひとつおまけにバンバンバン。たまたまてばこ」。おおさかしゅっしんのおとうさんは「どれにしようかな。てんのかみさまのいうとおり。ぶっとこいぶっとこい、ぶっぶっぶっ。かきのたね」です。おとうさんのは、おならのおとみたいでおもしろいです。『ことわざとことばあそび』というほんに、「どれにしようかな、てんのかみさまのいうとおり」はものをえらぶときのとなえことばとかいてありました。なにかをするとききまって口にするこことばを、となえことばといいます。わたしは、となえことばはしゅっしんちでちがうとおもいました。それでしらべることになりました。

ともだちとともだちのおかあさん・おとうさんたちに「どれ（どちら）をえらぶかまよったときになんていいますか」とアンケートをしました。ぜんぶで19人にききました。とうきょうの人がおおいので、おとうさん・おかあさんのおしごとの人や、おねえちゃんのとともだちにラインできいてもらいました。86人、26のけんのアンケートがあつまりました。

しゅっしんちがおなじで、ぜんぶいっしょの人はあまりいなかったけど、おなじけんだとにっていました。おおさかときょうとの人は「ぶっとこい」「ぶっとこいて」と、おならのおとみたいです。さいたまの人は「あべべのべ」がおおいです。きゅうしゅうの人は「けけけのけむし」と「アブラムシ」がおおいです。

それから、おやこでおなじかしらべました。おなじいいかたのおやこはいませんでした。どうしておやこでおなじじゃないか。たぶんおやにならっていないからです。わたしはほいくえんでおぼえました。

「いわない」とこたえたともだちも5人いました。ふだん「なのなのな」はつかわないけど、じぶんがおにになりそうなとき、「なのなのな」をいう人もいておもしろいとおもいました。

また、「どちらにしようかな」はむかしからあるのかなとおもったので、70さいをすぎているわたしのおじいさん・おばあさんにもきいてみました。おじいさん・おばあさんがこどものときもいったそうです。70ねんまえにもこのとなえことばがあつたので、びっくりしました。

いろんな人にアンケートをするのはちょっとはずかしかったけど、いろんないいかたをきけてよかったです。

【ひょう】 アンケートけっか

	ことば	しゅっしんち	おとな・ こども	ほうほう
ほ っ か い ど う	どちらにしようかな かみさまのいうとおり なのなのなすび となりの おじさんに きいたら わかります	ほっかいどう	おとな	LINE
	どちらにしようかな かみさまのいうとおり おせんべおせんべ やけたかな	ほっかいどう	おとな	LINE
	どっちにしようかな かみさまのいうとーり あべべのステテンテンの てん	ほっかいどう	おとな	LINE
と う ほ く	ピーチクパーチク どんどんどん	あおもりけん	おとな	しつもん
	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり あべべのべのべの かきのたね てっぼううって バンバンバン もうひとつうって バンバンバン ありがとうございます	あおもりけん、 ふくいけん	おとな	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって バンバンバン もひとつおまけに バンバンバン	やまがたけん	おとな	LINE
	どれにしようかな かみさまのいうとおり おっぺけペーのおっぺっぺ もひとつおまけに おっぺっぺ やーまのかみさま あかへなこ ※あかへなこ:かおのあかいおんなのこ	やまがたけん	おとな	LINE
か ん ど う	どれにしようかな かみさまのいうとおり てっぼううって バンバン かきのたね もうひとつおまけに バンバンバン	いばらきけん	おとな	LINE
	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり あべべのこべべで てっぼううって バンバンバン あかとんぼ しるとんぼ	いばらきけん	おとな	LINE
	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって ボンボンボン もうひとつおまけに ボンボンボン ※つづきはおぼえていない	かながわけん	おとな	しつもん
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって バンバンバン (なのなのな) おせんべ やけたかな ※なのなのなは、いれたりいれなかつたり(あたりそうなときはいれる)	かながわけん	おとな	LINE
	どれにしようかな かみさまのいうとおり なのなのな てっぼううって バンバンバン かきのたね プランコのれたかな	かながわけん	おとな	LINE
	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって バンバンバン もものたね かきのたね おもちやぼこ ※どっちゃんしようもいう	ぐんまけん	こども	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり あべべのべ てっぼううって バンバンバン もうひとつおまけに バンバンバン たまてぼこ	さいたまけん	おとな	しつもん
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり あべべのべ てっぼううって バンバンバン もうひとつおまけに バンバンバン たまてぼこ ※かきのたね というのもあった	さいたまけん	おとな	LINE
	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって バンバンバン もうひとつうって バンバンバン	さいたまけん	こども	LINE
	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり (てっぼううって バンバンバン もうひとつうって バンバンバン) ※うろおぼえ	さいたまけん	こども	LINE
	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって バンバンバン もいちどうって バンバンバン	さいたまけん	こども	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり あべべのべ かきのたね	さいたまけん	おとな	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり あのねのね	さいたまけん	おとな	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり あべべのべのべの かきのたね	さいたまけん	おとな	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり あべべのべ てっぼううって バンバンバン もひとつおまけに バンバンバン	さいたまけん	おとな	LINE
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって バンバンバン もうひとつうって バンバンバン のおもちゃぼこ	さいたまけん	こども	LINE	

どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり あべべのべ てっぼううって パンパンパン もうひとつおまけに パンパンパン	さいたまけん	おとな	LINE
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり ななのなの てっぼううって パンパンパン もうひとつおまけに パンパンパン ななのなの	ちばけん	おとな	しつもん
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって パンパンパン もうひとつうって パンパンパン	ちばけん	こども	LINE
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって パンパンパン もうひとつうって パンパンパン ななのなの かきのたね おもちやぼこ	ちばけん	こども	LINE
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって パンパンパン もうひとつうって パンパンパン ななのなの かきのたね おもちやぼこ	ちばけん	こども	LINE
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり あのねのね	ちばけん	おとな	LINE
どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううってパンパンパン	ちばけん	おとな	LINE
どれにしようかな かみさまのいうとおり てっぼううって パンパンパン もういつちうって パンパンパン みかんのかわが むけたかな	ちばけん	おとな	LINE
どちらにしようかな かみさまのいうとおり あのねのね	とうきょうと	おとな	しつもん
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり あべべのべのべの たまてぼこ てっぼううって パンパンパン パンパンパン	とうきょうと	おとな	しつもん
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって パンパン もうひとつうって パンパン ななの なの	とうきょうと	こども	しつもん
しらない	とうきょうと	こども	しつもん
しらない	とうきょうと	こども	しつもん
しらない	とうきょうと	こども	しつもん
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり ななのなの	とうきょうと	おとな	しつもん
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり ななのなの	とうきょうと	こども	しつもん
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり あべべのべ てっぼううって パンパンパン もうひとつおまけに パンパンパン (かきのたね)※おぼえていない	とうきょうと	おとな	しつもん
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり (なのなの)※いうときもいわないときもある てっぼううって パンパンパン もうひとつおまけに パンパンパン (かきのたね)※いうときもいわないときもある	とうきょうと	こども	しつもん
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり	とうきょうと	こども	LINE
どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり ななのなの	とうきょうと	こども	LINE
てっぼううって パンパンパン もうひとつうって パンパンパン あべべのべのべのべのべのべのべのべのべのべ	とうきょうと	こども	LINE
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり	とうきょうと	こども	LINE
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって パンパンパン もうひとつ うって パンパンパン ななのなの	とうきょうと	こども	LINE
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり ななのなの てっぼううって パンパンパン もうひとつおまけに パンパンパン	とうきょうと	おとな	LINE
いわない (くじびき)	とうきょうと	こども	LINE

か
ん
と
う

	いわない (めをとじて えらぶ)	とうきょうと	こども	LINE
	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって バンバンバン (もうひとつうって バンバンバン) ※これがつくときもある	とうきょうと	こども	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって バンバンバン	とうきょうと	こども	LINE
	①どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって バンバンバン もういちどうって バンバンバン なのなのな ②どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり なのなのな ③どちらにしようかな ※ぜんぶつかう	とうきょうと	こども	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり あのねのね	とうきょうと	おとな	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり あべべのべ てっぼううって バンバンバン もひとつうって バンバンバン	とうきょうと	おとな	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり おへべのべ しおからとんぼ あかとんぼ	とうきょうと	おとな	LINE
ち ゆう ぶ	ぼくだんうってバンバンバン もひとつうって バンバンバン なのなのな かきのたね	ながのけん	こども	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり ベコベコ アブラムシ そらむけよ ゲゲゲのゲ	ながのけん	おとな	LINE
	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり あかとんぼ しろとんぼ ゲゲゲのきたろうさまの いうとおり	にいがたけん	おとな	LINE
	どれにしようかな うらのかみさまのいうとおり びっびっびーのびびっびっちょ ※ながいものもあつたが、わす れた	にいがたけん	おとな	LINE
	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり こっちむいて バンバンバン あっちむいて バンバンバン	やまなしけん	おとな	しつもん
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって バンバンバン もひとつおまけに バンバンバン	あいちけん	おとな	しつもん
	どちらにしようかな かみさまのいうとおり てっぼううって バンバンバン もういちど うって バンバンバン	あいちけん	こども	LINE
きん き	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり ぶっとこい ぶっとこい ぶつぶつぶ かきのたね	おおさかふ	おとな	しつもん
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり あつぶつぶ かきのたね てっぼううって バンバンバン	おおさかふ	おとな	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり ぶっとかいて ぶっとかいて ぶつぶつぶ かきのたね あぶらむし	おおさかふ	おとな	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり ぶっとかいて ぶっとかいて ぶつぶつぶ かきのたね あぶらむし	おおさかふ	おとな	LINE
	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり かきのたねを まきました あつぶつぶ	おおさかふ	おとな	メール
	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり	わかやまけん	おとな	しつもん
	どちらにしようかな てんのかみさま	わかやまけん	おとな	しつもん
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり ぶっとこいた ぶっとこいた ぶつぶつぶ かーきーのーたーね	きょうとふ	おとな	LINE
	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり ぶっとこいて ぶっとこいて ぶつぶつぶ ぶっとこいて ぶっとこいて ぶつぶつぶ かきのたね もひとつ おまけに 1, 2, 3	きょうとふ	おとな	LINE
どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり あのねのね てっぼううって バンバンバン	ひろしまけん	おとな	LINE	
どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり けけけのけんぼうず かきのたね ロウソクーぼん きえた	やまぐちけん	おとな	LINE	

ち ゆ う ご く ・ し こ く	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって バンバンバン	えひめけん	おとな	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって バンバンバン	えひめけん	おとな	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり たいこをたたいて ※つづきわすれた	かがわけん	おとな	LINE
	どれにしようかな うらのかみさまのいうとおり うらからまわって 3ばんめ 1、2、3	とくしまけん	おとな	LINE
き ゆ う し ゆ う	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり けけけのけむし	おおいたけん	おとな	LINE
	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって バンバンバン もひとつ おまけに バンバンバン かきのたね	おおいたけん	おとな	LINE
	どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり なのなのな (ゲゲゲのアブラムシ かきのたね) ※これをいっていたきおくもある	かごしまけん	おとな	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり かきのたね	くまもとけん	おとな	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり てっぼううって バンバン もひとつおまけに バンバン け、け、けのけむしのかきのたね あぶらむし ごはんつぶ うえからまわって3ばんめ 1、2、3	くまもとけん	おとな	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり ケッケケケケのケムシアブラムシ クソなめた ※つづきわすれた	ふくおかけん	おとな	LINE
	どれにしようかな てんのかみさまのいうとおり せっせのせのせのせのおまけつきですよ	ふくおかけん	おとな	LINE
	月火水木金土日(げつ か すい もく きん ど にち)	ふくおかけん	こども	LINE
どちらにしようかな てんのかみさまに きいてみよう 1、2、3、4、5、6、7、8、9、10	みやぎけん	おとな	LINE	

ぼくのたてあなしきじゅうきよ

板橋区立桜川小学校1年 和田 瑛土^{わだ えいと}

ぼくのいえのちかくには、じょうほくちゅうおうこうえんがあります。ぼくはじてんしゃのれんしゅうをするとき、いつもこのこうえんにきます。じてんしゃのれんしゅうコースのとちゅうに、くさでできたいえがあります。おとうさんにあれはなにかきいてみたら、たてあなしきじゅうきよというなまえで、むかしのひとがすんでいたいえだとおしえてもらいました。ぼくのいえはくさでできていないから、どちらがうのかすごきになりました。でも、じょうほくちゅうおうこうえんのたてあなしきじゅうきよはさくのなかにあっては入れないから、ぼくはたてあなしきじゅうきよのことをとしょかんでしらべてみることにしました。

たてあなしきじゅうきよは、じょうもんじだいというじだいぐらいからつくられていて、じめんにあなをほって木やくさでいえをつくるものだとわかりました。それから、たてにあなをほってつくっているの、たてあなしきじゅうきよなんだとわかりました。くさでできていたら、なかはさむいかとおもったけれど、なつはかぜがはいってすずしくて、ふゆはたきびをしたりしてあったかいこともわかりました。

むかしのひとは、たてあなしきじゅうきよをじぶんでたてていたの、ぼくもおとうさんといっしょに、たてあなしきじゅうきよをつくってみることにしました。ざいりょうはねんどと、じょうほくちゅうおうこうえんでひろってきた木のえだと、ほうきのさきです。さいしょにねんどをいたのうえにおいて、まるくあなをあけました。そのあと木でどだいをつくって、そのうえにくさをつけました。じょうほくちゅうおうこうえんのたてあなしきじゅうきよとは、ちょっとかたちがちがうけど、いえができました。ぼくはちいさなたてあなしきじゅうきよをつくるのが、とてもたいへんだったので、むかしのひとはおおきなたてあなしきじゅうきよをつくるのは、もっとたいへんだったとおもいます。

ぼくはたてあなしきじゅうきよのことをしらべたりつくったりして、いえをつくるのはとてもたいへんだなとおもいました。ぼくのいえやしょうがっこうはコンクリートでできていて、たてあなしきじゅうきよよりももっとおおきいので、つくったひとはもっとたいへんだったとおもいます。だからこれからはつくったひとのことをかんがえて、ろうかをはしたりとびはねたりしないで、だいじにしようとおもいます

じょうほくちゅうおうこうえんの
たてあなしきじゅうきよ



かんばん



木のどだい



ぼくがつくったたてあなしきじゅうきよ



もろ山にむかしあったけつあぶりぎょうじとそれにまつわる でんせつ

毛呂山町立泉野小学校2年 いわの 岩野 みひろ 満優

しらべようとおもったわけ

れきしのすきなおねえちゃんが「けつあぶり」のぎょうじのはなしをしてくれました。「けつあぶり」だってぼくは、おもしろくてわらってしまいました。おかしかったので、「けつあぶり」ってどうやるのかいろいろしらべてみたくなりました。

1～6しらべたこと

- 1 「けつあぶり」ってなあに。
- 2 なんで6月1日にやるの？
- 3 なんでやるようになったの？
- 4 場しよによってちがいがあるのかな？
- 5 もろやまいがいの場しよでもあるの？
- 6 でんせつとのかんけいは

しらべかた

- 町のおじいちゃんおばあちゃんにきく。
- しりょうかんの人にきく。

①けつあぶりってなあに？

きゅうれき6月1日の朝、小麦ピールをにわさきでいぶりもやした。そのもえた小麦ピールにむかって、家ぞくぜんいんがしりをまくりあげ、あぶるようなしぐさをしたそうです。

②なんで6月1日にやるの？ なんのためにするの？

麦のかりとりがさかんになるのが6月だからだそうです。

おしりをあぶることにより、からだのなかのびょう気をおいだし、これにより半年をぶじにというねがいと、いねに虫がつかないように、というねがいがこめられていたそうです。

③なんでやるようになったの？

「けつあぶり」でもやされるばかぬかは、麦のもみがらとのげ（とげ）で、せいさんだかが日本一だったさいたまけんで、いるまぐんをちゅうしんとした地いきのうかにならずあったから、このようなぎょうじがはじまったそうです。

④場しよによってちがいはあるの？

「けつあぶり」につかうざいりょう、もやす場しよなどけん内はほぼおなじです。

「けつあぶり」をするりゆうが、町内のあざによって、すこしちがっていました。町内で、よりむかしのことをしている人におしえてもらいました。

夏かぜをひかない	「さわだ地くのおばあちゃんのはなし」
おなかをこわすことがない	「さわだ地くのちがうおじいちゃんのはなし」
まんじゅうやくよけ	「つづらぬき地くのおばあちゃんのはなし」
あくえきよぼう	「だいし地くのおじいちゃんのはなし」
ようつうぼうし	「若い地くのおばあちゃんのはなし」

町内でも、場しょによつてりゆうがちがうのがおもしろいと思いました。

⑤もろやまいがいの場しょでもあるのかな？ ほかでもこのぎょうじはありました。

よびかたもけん内もおおくはちゅうおうぶで、「けつあぶり」でした。ほかのちくでのよびかたには、「けつあぶり」しょうがつ、しりっぱたき、のげいぶし、おたきあげ、かどび、ついたちまんじゅう、わせぎ、すりばちのおきゅうなどがありました。

けん内では6月1日、または7月1日におこなわれました。らんざん町では、おおくら、ねぎし、しょうぐんざわと、かまがたの、うえきやまのちほうに、ほかには、はちこうせんにそつたせいぶさんろくいったいでおこなわれていたそうです。そのほかおおい町、かみふくおか、川ごえ、よしみ。しらおか、ちちぶおおみやなど。

そのほかのけんにも、にたようなぎょうじがありました。

「けつびたし」ととなえながら、おしりを石につきだす（とちぎけんもぎまち）。

たきびにむかって「むびょうそくさい、三年ながいきけつあぶり」といっておしりを火にむけるそうです（ひろしまけんせらぐんせら町）。

しりふりまつり（きたきゅうしゅうしおぐらみなみく）。

へびがでてくるでんせつは、あちこちにありました。へびがおおいけど、りゅうのでんせつもありました。

⑥さかの上田むらまろでんせつとのかんけい

いわどのあるしょうほうじには、むかしわるいおおへびがむらびとをこまらせていた。きょうからきた、さかの上田むらまろという人がおおへびをたいじしたが、そのときは6月1日だったのにおお雪がふり、さむさにふるえていたしょうぐんたちに、村人がだんをとらせたり、おまんじゅうをたべさせたりしたというでんせつがあります。へびをうめた場しょとか、しょうぐんがたてたじんじゃもあります。

「けつあぶり」のでんせつにちなんでつくられたまんじゅう

「けつあぶり」まんじゅう、ついたちまんじゅう、のげいぶしともいわれています。ばしょによっては、まんじゅうではなくひじきをたべるところもあったそうです。

まとめ

「けつあぶり」のぎょうじはいまもろ山町にのこされていません。ざんねんです。でも、ちかくのいわどのに、おばあちゃんやおねえちゃんがすきなまんじゅうがあるのでよかったです。おまんじゅうのなまえは、「しりあぶりまんじゅう」というそうです。

しょうぐんじんじゃ



しりあぶりぎょうじ



けつびたしぎょうじ



しりあぶりまんじゅう



しょうほうじ



はなしをきいたひと

- さわだ、だいし、つづらぬき、若い地くのおばあちゃん、おじいちゃん
- れきししりょうかんの人
- としよかんの人

ソメイヨシノという桜はどこで生まれたのか

板橋区立緑小学校3年 せきね ことは 関根 采羽

わたしの家のまどからはサクラの木が見えます。春になるといっせいに花が咲きます。近くには、さくら公園という公園もあります。花びらを手にいっぱいすくって、空に向かってちらすと、ひらひらとてもきれいです。そのサクラが、どこで、どのように生まれたのか、調べてみようと思いました。

サクラにはたくさんのしゅるいがあることが、わかりました。植物図かんなどを見ると、世界には六百しゅるい以上もある、と書いてありました。そして、日本で咲いているサクラの多くはソメイヨシノというサクラだそうです。おじいちゃんとおばあちゃんが住んでいる所はとしま区駒込で、家の前は染井通りだ、とお父さんに教えてもらいました。なにか関係があるのか、聞きに行くことにしました。

としま区がつくったちいさな本をおじいちゃんと読みました。むかしのことがわかるれきしの本でした。それにはおじいちゃんの住んでいる所は、二、三百年前、染井村と言われ染井通りもありました。むかしの地図も見ました。植木屋さんの家がずっとならんでいるのが書かれていました。植木屋さんは、庭の手入をしたり、木を育てたり、新しくきれいな花を考えて作ったりするのが、お仕事です。そのころは、江戸時代と言うのだそうですが、このへんには、りくぎえんや大名というような人の大きな屋しきがたくさんあって、きれいなお花や花の咲く木を植えていたそうです。植木屋さんはアサガオ、つつじ、きく、あじさいなどもここで作って、いつももっときれいになるように、研究して、育てていた、とも書いてありました。

この染井村の植木屋さんの中にいとうさんという人や何人かの人が、江戸時代の中ごろからソメイヨシノをはじめ作りだしたということです。それまで日本のサクラは八えザクラ、オオシマザクラというしゅるいのものがゆうめいだったのですが、花びらの数がそんなに多くなく色もピンクに近いもっときれいな花を咲かせる木を何年もかけて作りました。

うつくしくかわいい花なので、この百五十年くらいの間に、日本中に広まりました。そして染井という土地から生まれたので、ソメイヨシノと名前をつけたということでした。いとうさんのおはかは、染井のとしま区こまごめ小学校のはす前にあるお寺に今もあって、おじいちゃんとおまいりに行きました。また、染井では、サクラの木を育てて全国や外国に配っている、とお寺の人に教えてもらいました。

染井のとなりにすがもという所があります。板橋区のそばです。そこにむかし、木や花ややさいのたねを売るたね屋さんがたくさんあったことがありました。今もいくつかお店があります。お花や木をそだてるのには、たねがいります。植木屋さんの村のとなりに、たね屋さんの町ができたのです。

ソメイヨシノはアメリカやヨーロッパにも広まり、よく知られているそうです。アメリカのワシントンには、日本からおくられたソメイヨシノがポトマック川のりょうぎしにたくさん植えられ、春になると日本のようにいっせいに咲くとのこと。多くのアメリカ人が見学に行つて楽しい日をすごすそうです。おじいちゃんはりょこうに行つたとき、オランダのチューリップ公園でソメイヨシノが咲いているのをたくさんの国から来た人たちがしゃしんにとっているのを見た、と言っていました。

今回ソメイヨシノを調べているうちに、大切だと考えたことをさいごにまとめたいと思います。

一つは、植木屋さんのお仕事を知ることができました。ソメイヨシノも、いろいろなサクラの木のえだを次々つなぎあわせ、新しい木、花をつくり続けてつくり出しました。植木屋さんだけでなく、新しいものをつくるには大変などりよくとけんきゅうのつみかさねがひつようだと思いました。

二つ目は、お花は人々を楽しませてくれ、心をゆたかにしてくれると思いました。

三つ目は、お花や木を通じて世界の人とお友だちになれることもわかりました。

〈ほかに調べたこと〉

- ・サクラ・さくら（桜）＝バラのなかまの木で春に花が咲く。しゅるいが多いキク（菊）とともに日本の国花。（国語じてんから）
- ・ソメイヨシノ＝日本でもっとも有名な桜で、春のお花見といえばこのソメイヨシノのことをさすのが一般てきです。花はふつう4月の上旬ごろにみっせいして開花する。はじめたんおん（淡紅）で、後にはほとんど白色となりかすかなにおいがあります。ひとえ咲き五片である。（インターネットから）
- ・ソメイヨシノのつくられ方や分布＝エドヒガンとオオシマザクラをこうはいさせてできた日本のさいばい品しゅ。いでんし研究の結果、1995年にこのことがはっきりした。北海道、本州、四国、九州のほか中国や朝鮮半島に分布する。（植物図かんから）
- ・花言葉＝「純けつ」「すぐれた美人」の意味がある。桜全般の「せいしんの美」とはべつの意味がある。（インターネットから）

上板橋子育地蔵について

板橋区立緑小学校3年 はっとり そら 服部 青空

ぼくの通っていた保育園は、東武東上線の上板橋駅南口を出て、川ごえかい道の近くに
あります。その保育園の近くに立ばな子育地蔵があります。櫻井徳太郎賞の夏休みの宿題
がでたので、図書館に行きました。ぼくの知っている子育地蔵の事が書いてあった本があっ
たので、本やインターネットやげん地に行ったりして子育地蔵のことを調べました。

おどうには三体の地蔵があり、どうの入口右手の一体は新しいもので1966年の他は、く
わしいことは分かりませんでした。

どうの中二体は、1777年ごろ、武州豊島郡上板橋之内栗原村とあります。今から244年前、
ずいぶん前のお地蔵さんとわかりおどろきました。

どうの中の二体の地蔵は、もともと栗原せきの一本橋（今の桜川一丁目、茂呂いせき）
付近に立っていました。明治初年にこれらの地蔵は、川ごえかい道にめんした「ガツカラ
坂」とよばれる場所にうつたと言われています。その後地蔵があれはてたじょうたいに
なりました。

大正12年ごろ、宝田豆ふ店の店主があれはてた地蔵を心配して、豆ふ店の近くの今の場
所に地蔵をうつしました。ぼくは、豆ふ店の店主がやさしい人で良かったなと思いました。

げんざいも子育地蔵は人々のそぼくなねがいをひきうける地蔵さまとして、しょう店が
いを中心に大切に守られ、まつられています。

上板橋南口しょう店がいのイメージキャラクターの「まもりんぼう」は、とてもかわい
いデザインです。

ぼくが子育地蔵を見に行った時、雨が少しふっていましたが、かさをさして自てん車に
のっていたお兄さんが子育地蔵の前に自てん車をとめ、かさをおき、れいをして、すずを
ならしてまたれいをしてから、入口右手の新しいお地蔵さんの頭をなでていました。この
お兄さんを見て、人々に広く親しまれていることがよくわかりました。

4月から9月の「7」のつく日には、地蔵の前の旧川ごえかい道でえん日が開かれるな
ど、地いきの活せい化に役立っているそうです。保育園に通っていたころ、このえん日に
何回か行きました。たくさんの人でにぎわい、多くのお店があり、すきな物を買ってもら
い楽しかった思い出があります。このえん日が子育地蔵とかかわりがあることを調べて知
りました。

今度、子育地蔵の前を通る時には、手を合わせたいと思います。

たった一つの車田植

板橋区立板橋第五小学校3年 ほんま けいと 本間 恵翔

田んぼといえば、緑色をしていて四角い形が広がっています。まるでふわふわのジュータンのようで、そこに飛びこんでみたい気持ちになります。新がた県佐渡市に住むおじいちゃんの家から少し歩くと、一気に一面が田んぼです。ずっとずっと遠くまで広がっています。佐渡は米農家がとても多いので少し調べていくと、一つだけちがう形をした田んぼがあることがわかりました。

それは、佐渡の北たん、北う島集落にある車田です。古ふんのような形をした田んぼに、円をえがくようにして田植えをする“車田植”といい、北村家に伝わる豊作をいのる稲作ぎ礼です。これは昭和55年に国の重要無形民俗文化財に指定されています。車田植の歴史は古く約千年前からあるそうです。

四月初めに種まきを始め、苗が大きくなった時に葉の枚数が多くないと植えにくいので、中苗くらいにまで育てて、五月中旬の“オオダの日”と呼ばれる大安の日に田植えをします。田植え当日は、田主があどと呼ばれる土手に立ち、御神酒をささげて手を合わせます。その後、三人の早乙女と呼ばれる女性が北、南、西の三方から田に入り、苗を一たばずつ受け取って田の中央に進み、半たばを中央に植え、そこから左まわりに後ずさりしながら外に向かって苗を植えていきます。あぜでは豊作を祈る車田植歌がうたわれます。およそ一時間かけて田植えをするそうですが、ずっと腰を丸めた状態で植え続けるのでとても辛い作業だろなと思いました。

ぼくはいくつか疑問があったので、北村さんにお話を聞いてみました。どうして丸く植えているのか。車田は古ふんやつりがねのようにこをえがくような形をしているが、御神酒をそそぐ時にアゼにすわると目の前に太陽が見えるので、太陽と関係しているのではないかと言っていました。植物を育てる時は太陽はかかせないので、ぼくもきっとお日様の力は絶対に必要だし、他の田んぼと形がちがうから、田んぼの神様もきっとすぐわかるからじゃないかなと思いました。収かくしたお米は、昔は伊せ神宮へおそなえしていたそうですが、今は自分で食べているそうです。

ぼくがお話を聞いて一番おどろいたことは、この車田植をかん理している方が北村さん一人だけということです。北村さんも、若い方の植え手がいない、一人なので自分が病気になった時に困ると言っていました。ぼくはふだん学校や家で植物や野菜を育てるけど、一つのを育て上げるのは思っているよりむずかしいです。田んぼはきぼが全然ちがうので、北村さん一人でかん理するのはとても大変なことだと思います。伝統をつぐのは、自分がやるという強い気持ちがないとできないし、簡単なことではありません。車田植は、現在は佐渡市の北村家だけになっているそうです。引きつぐ人がいなければ、ずっと守ってきた歴史が完全に止まってしまいます。北村さんもこの先ずっとお元気で続けてほしい

し、車田植の歴史は絶対に止まってほしくありません。

佐渡のお米はあまくてとてもおいしいです。車田のお米も神様とお日様が見守ってくれているから、きっとおいしいと思います。

ぼくは今回、歴史を守っていくことの大変さを知りました。植え手がいないと言っていたように、兄弟や集落、地いきの方の協力がなければ、一人では大変な仕事だと思いました。だけど、どんどん便利になっていくモノがあふれていても、昔から伝わる伝統を今も大切に守っている北村さんを、ご先様はきっと喜んでいると思います。

田んぼを調べていくうちに車田植にたどりついて、それが全国にただ一つしか残っていないということを知ってほしいです。この作文を書いている夏休みの今の車田が、きっと緑色の丸いふわふわジュータンになっているんだろうな。

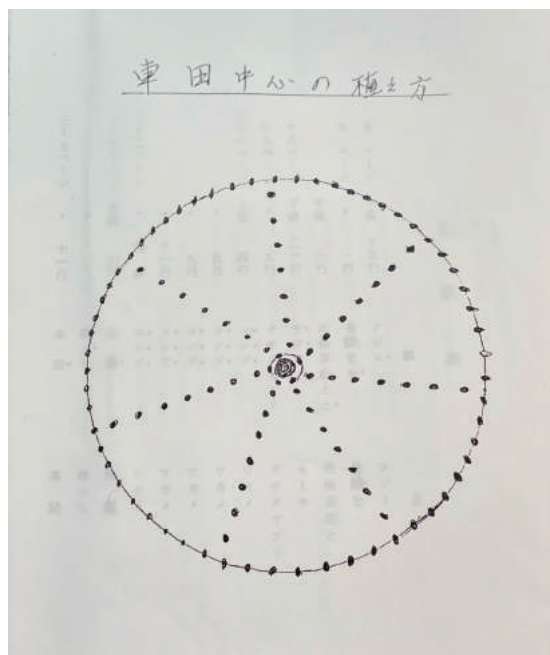
北鶴島の車田



車田に植える苗



苗の植え方



田植え前、お神酒を車田に注ぐ



3人のソウトメによる車田植



車田植の唄

四 今日(けふ)は一日(いちにち) まわりあど(まわりあど) ダンエー
 つけて(つ)け(つ)て(つ)くら(くら)の(の)せ(せ) こ(こ)臨(りん)から(から)
 ソレサ(れ)ーソ(れ)ン(れ)ソ(れ)レ(れ) ダンエーカカエ
 五 つ(つ)ぼ(ぼ)を(を)く(く)う(う)て(て)も(も) 大(お)ら(ら)ち(ち)引(ひ)く(く)な(な) ダンエー
 こ(こ)は(は)大(お)手(て)な(な)年(ねん)貢(こう)の(の)田(た)だ(だ)よ(よ)
 ソレサ(れ)ーソ(れ)ン(れ)ソ(れ)レ(れ) ダンエーカカエ
 六 今(こ)年(ねん)し(し)や(や)豊(とよ)年(ねん)だ(だ)よ(よ)穂(ほ)に(に)穂(ほ)が(が)下(さ)がる(がる)ダンエー
 道(みち)の(の)小(こ)草(くさ)に(に)も(も)米(こめ)が(が)な(な)る(る) ダンエー
 ソレサ(れ)ーソ(れ)ン(れ)ソ(れ)レ(れ) ダンエーカカエ
 七 今日(けふ)の(の)大(お)足(あし)引(ひ)き(き)や(や)ど(ど)な(な)た(た)で(で)こ(こ)さ(さ)る(る) ダンエー
 一(いち)夜(や)な(な)り(り)と(と)も(も) な(な)じ(じ)よ(よ)み(み)た(た)い(い)
 ソレサ(れ)ーソ(れ)ン(れ)ソ(れ)レ(れ) ダンエーカカエ

車田植の唄
 一 今日(けふ)は(は)め(め)て(て)たい(たい)車(くる)田(ま)植(う)え(う)る(る)田(た)が(が)植(う)わ(わ)る(る) ダンエー
 植(う)え(う)た(た)車(くる)田(ま)植(う)え(う)る(る)は(は) 穂(ほ)に(に)穂(ほ)が(が)下(さ)が(が)り(り)や(や)れ(れ)
 ソレサ(れ)ーソ(れ)ン(れ)ソ(れ)レ(れ) ダンエーカカエ
 二 揃(そろ)た(た)揃(そろ)た(た)よ(よ) 早(はや)乙(お)女(め)し(し)ゆう(ゆう)が(が)揃(そろ)た(た) ダンエー
 稲(いな)の(の)出(い)穂(ほ)よ(よ)り(り)よ(よ)く(く)揃(そろ)た(た)
 ソレサ(れ)ーソ(れ)ン(れ)ソ(れ)レ(れ) ダンエーカカエ
 三 こ(こ)は(は)名(な)主(ぬし)ど(ど)ん(ん)の(の)年(ねん)貢(こう)の(の)田(た)だ(だ)よ(よ)ダンエー
 小(こ)ま(ま)す(す)ま(ま)ど(ど)ろ(ろ)し(し) 斗(と)で(で)は(は)か(か)ら(ら)し(し)や(や)れ(れ)
 ソレサ(れ)ーソ(れ)ン(れ)ソ(れ)レ(れ) ダンエーカカエ

参考資料

民族文化映像研究所編『国指定重要無形民俗文化財 佐渡の車田植：昭和55年度映像記録事業にともなう報告』両津市教育委員会、1980年

参考HP

「佐渡島キタライフ」 <https://sado-kaifu9.com/>

井戸にはれきしとゆめがある

板橋区立金沢小学校3年 なかやま みなみ 仲山 南

「身近にある古いもの、昔からの生活」と聞いて私が思いうかべたのは井戸でした。

じっさいに見たことはないけれど、私は本がすきで、物語によく出てくる井戸にきょうみを持っていました。たとえば、井戸の中に住んでいる女の子がおねがいをしてねがい事をかなえてもらう話、井戸で死んでしまった女の人が夜おそくお皿を数える話、ヘレン・ケラーが井戸の水から言葉をおぼえる話など、今では耳にすることもない井戸ですが、ふしぎとお話では出てきます。そして、私も井戸と聞くと少しわくわくする気持ちが出てくるのです。

実さいに見てみたいな。と思ってお母さんに話してみると、「近くにあるよ。水は出ないと思うけど。」とあたり前のように言うのでびっくりしました。その日の午後、お母さんが井戸のある所につれていってくれました。

実さいに見てみると私がそうぞうしていたふかいあなの様な井戸ではなく、持ち手がついた水道の様な井戸でした。その後、近くを歩いて、にた様な井戸が他にも二つ見つけましたが、どれもビニールがかけられていたり、さびてしまったりして使われていない物でした。どうして使われていないのか私は気になり、もっと井戸について調べてみたくなりました。

調べてみると、井戸には大きく分けて「ほり井戸」と「ほりぬき井戸」という二つのほり方があり、ふかさのちがいによってあさい井戸を「あさ井戸」、ふかい井戸を「ふか井戸」とよぶことがわかりました。ふかくほることは大へんですが、良いこともあります。ふかい井戸は、ふかいほどキレイな水となりたまりやすくなります。はんたいに、あさい井戸は、かれやすくごっきんが多くのもむことができなくなります。そのため、ふかくほるにはきかいを使っているそうです。

私はぎもんに思いました。江戸時代など昔の井戸はきかいもなくほり井戸のようだけど、飲み水として使っている気がする。昔の雨はキレイだったのかな。と考えたのですが、実は、江戸時代の井戸は水道だったのです。江戸時代の最初はほり井戸だったのですが、はんえいとともに住む人が急にふえた江戸では井戸も足りず、埋め立て地である下町では海水を含んでしまい飲み水にはならず、水ぶ足となりました。そこで飲み水として使えるように川から引いた水をためたのが江戸の井戸です。私はとてもびっくりしました。水道には飲むことのできる上水、生活に利用する中水、生活はい水となった下水の3つがあります。その時代としては、世界で一番の上水道だったそうで、江戸に住む人の多さがわかります。町の人みんなで利用していましたが、ふえつづける人や水道をかん理する大へんさ、井戸をほるぎじゅつが良くなったこともあり、上水道を利用した井戸は、町からへり、みんなの家にキレイな水がくめる井戸が作られていることがふえていったそうです。近くに

住んでいる私の祖母も板橋生まれということで、祖母に話を聞きに行ったら、なんと祖母の家にも井戸があったということを教えてくれました。祖母の話をもとめると、1「井戸は祖母が15才くらいまで家にあった。」2「飲み水としても利用できた。」3「大きさは一回り90センチメートルほど。」4「かれてしまって今はない。」5「水道がきょうつうしたことで町からなくなっていった。」井戸をほるぎじゅつが良くなったといっても、ふかくほることはむずかしく、多くの家では井戸をふっかつさせようとする人もいなくなり、どんどん井戸のすがたがきえてしまっていました。そして東京の水道と井戸には大きなかんけいがあることもわかりました。私はお母さんと見に行った井戸をもう一度見に行きました。まえに見た時には分かりませんでした。いまは分かります。いつごろできた物なのか。なぜここにあるのか。どうして水が出ないのか。この井戸は私が東京のれきし、井戸のれきしについてくわしくなることで、いろいろなことを教えてくれるようになりました。この前見たときよりもいまはずっと身近に感じる事なのです。私はなぜ井戸にきょうみをもったのか。いつの時代も生き物にとってひつようなものです。水が出るということは、どれほど大事ですごいことなのかを知るとお話にたくさん出てくることも、私がきょうみをもったことも当たり前のことだと思いました。

今は、じゃ口をひねると水が出てきてすごいしんぼをしたけれど、水がよごれ、かれてしまったことを考えると、かんきょうにも気をつけようと思います。

私は今、マンションにすんでいるので、あなをほったら大さわぎになってしまいますが、いつか大きな庭のある家にすんで井戸をほってみたいです。井戸の水は、とてもおいしいときくので、くんだ水でカップラーメンをつくって食べたいです。

れきしをつなげ!! 成増里神楽

板橋区立成増ヶ丘小学校3年 さかもと いつき 坂本 伊津生

・ どうして調べようと思ったか

ぼくのおじいちゃんは「成増里神楽保存会」という板橋区む形みんぞく文化ざいのだん体でおどりをおどっています。

お正月やせつ分、夏まつりなどによく神社に出向いておどっていたり、家でもおどりやしのぶえなどのれん習をしています。ぼくが赤ちゃんのころからのことなので、とくに気にしていませんでした。

でも、コロナウイルスのせいで、里神楽のイベントが中止になったり、あとをつぐ人がいない、とさい近よく話しているのので、「里神楽って何をしているんだろう?」とあらためてきょう味がでてきたので、おじいちゃんや回りの人に聞いてみることにしました。

・ 里神楽のれきし

昔から、神楽はおもに神社で神事やさいれいの時に、神様にささげるげいのうとしてあったそうで、それが長い年月をかけて、いろいろな土地の風しゅうや文化とともに今に伝わるようになりました。

じてんで調べるとこのように書いてありましたが、正直よくわからないところも多かったのので、直せつおじいちゃんに聞いてみました。

おじいちゃんによると、明じ時代に成増に住むおはやしの人たちではじめたのが成増里神楽のはじまりだそうです。それまでは、ほかの地いきから来てもらってほうのうしてもらっていました。

しだいに成増の「すが原神社」のまつりばやしをえんそうしていた人たちが、「さがみりゅう」の人たちに教えてもらうようになり広まっていきました。

ここまでおじいちゃんから話を聞きましたが、それでもぼくにはむずかしくてわかりませんでした。なので、こんどはお父さんに「むずかしくてわからない」、とそうだんしました。

お父さんによると、昔から日本の神社ではおまつりやきせつごとに神様の前でおどることを大切にしてきました。そのおどりが神様へおねがいや感しゃを伝えることになっているからだそうです。これを「ほうのう」と言うそうです。

おどりに音楽はつきもので、おどりを「まい」、音楽を「おはやし」とよぶそうです。

まいもおどりも町ごとにたくさんあり、成増のすが原神社でも、おまつりのたびに、「ほうのう」されていましたが、とくにまいはむずかしく、プロの人たちを遠くからよんでおねがいしていました。これが百五十年くらい前のことだそうです。

明じになり、おはやしが上手だった成増の人達が「よし、ではまいも習ってみよう」と

はじめたのが、成増里神樂のはじまりだそうです。

・れきし「今も昔も同じなやみ」

お父さんのお話で、とても気になることがありました。

明じ時代からはじまり、大正時代にはしっかりとしたグループになった成増里神樂ですが、しょう和に入ってせんそうがはじまると、おまつりそのものが出来なくなり、まいもおはやしも出来なくなってしまいました。

「これでは文化がきえてしまう!!」と思った人があつまり、何とぼくのひいおじいちゃんの由五郎さんを会長として、しょう和43年に、「神樂あいこう会」が作られました。この会がしょう和54年に、板橋区から「む形みんぞく文化ざい」に指ていされたそうです。

今おじいちゃんは、「おまつりがない」、「里神樂をやる人がいない」、とぼくに言いました。けれど、これはひいおじいちゃんや昔の人たちと同じなやみなのではないかと思いました。

・里神樂のこれから・思ったこと

神樂のお話は古い神話を題ざいにしているそうです。でも、そのままえんじると、話がむずかしすぎてわからなかったり、つまらなくなってしまいます。なので、げん代でもうけ入れられるように、おとぎ話や昔話など、見ている人全員がわかるように少しずつかえながら伝えていくど力をしたい、とおじいちゃんは言っていました。

おじいちゃんは、小学校で里神樂のじゅぎょうをしたり、寺子屋や区のイベントなどで神樂にきょう味をもってもらえるような活動をしています。

ぼくの家においては、ひいおじいちゃんからおじいちゃん、お父さんまで里神樂をうけついできました。ぼくはまだ里神樂のことはよくわからないし、やったこともないけれど、ぼくもなんらかの形で里神樂にたずさわって、おじいちゃんたちが大切に守ってきたこの文化を、つないでいきたいと思います。

江戸のエコを見習って

板橋区立板橋第五小学校4年 関根 ゆり佳^{せきね か}

私の祖父は、板橋区エコポリスセンター「いかけ屋さん」の職人です。この「いかけ屋さん」では、傘や鍋の修理、くつの直し、包丁とぎ、他にも様々な修理をしています。

祖父に「『いかけ屋』は、修理屋という意味？」と質問すると「まあ～修理屋だけど、江戸時代に鍋や釜を修理する人のことを言ったんだよ。他にも色々な修理屋がいて、江戸時代の人たちは物を使い続けて、むだのない生活をしていたんだ。」と教えてもらいました。

江戸時代にどんな修理屋があったのか興味を持ち、調べてみました。

私は、調べる前に江戸の生活を想像しながら、まず予想してみました。

着物、家、履物、家具、台所用品、おもちゃ、布団、の修理屋が今と同じくあるのではないかと思いました。

本やインターネットで暮らしぶりを勉強すると現代は物がこわれた時は、新品を買い直す事が多い。しかし、今のように江戸時代は簡単に物が手に入りませんでした。だから、物は捨てずに修理するのが当たり前で、町には多くの修理屋がいました。修理屋の名前を書ききれないほどです。

私が予想していたものもあり、それ以上に生活用品すべて、一つひとつに修理屋が存在していました。中でも驚いたのが「扇子の地紙売り」です。この修理屋は夏限定で、こわれた扇子は地紙を張り替えて直していたそうです。そして、鏡を磨く「鏡とぎ」、皿や茶碗が割れたら「焼きつぎ屋」に修理を頼みます。今なら危ないからと、割れた物は捨てる事が多いと思います。大切な水を入れておく、桶修理の「たが屋」、夜道を照らす灯の「提灯の張り替え屋」、下駄を直す「下駄の歯入れ屋」、そして、江戸で最も重宝がられていたのが「いかけ屋」です。

「いかけ屋」はとても必要な修理屋でした。鍋や釜は金属類で、昔は貴重品として扱われて、大切な家財だったからです。

「月夜に釜を抜かれる」ということわざを母から教えてもらいました。銅釜は、高価な物で泥棒が真っ先に狙う品物だったことから、このことわざが出来たそうです。このようなことから、修理をしながら大切に使っていたことがわかります。

いかけ屋などの修理職人たちは、天秤棒に修理道具をぶら下げ町や村を歩いたそうです。

「え～いかあけっ、え～いかあけえ～」と売り声を上げると客が集まってきます。その場で炭を熱して、鉄などをとかして鍋や釜の穴を塞ぎ、こうしてまた捨てずに使えるのです。

しかし、中には修理出来ない物もあり、それはごみになるのではなく、その物を買取る回収業、それを別の物に作り変える仕事、そして売る仕事。こうして、資源を有効活用していました。

このことは、学校で習った「3R」＝リデュース、リユース、リサイクルの取り組みだと思いました。

時代が流れるにつれて、生活用品は壊れにくく、買い替えることが多くなった。昭和30年頃は、まだ町を回ってくる修理屋がいたそうです。祖父は、キセル（タバコを吸うための昔の道具）の修理屋を週に一度は見掛けたそうです。しかし、このような町を回る修理屋はほぼなくなりました。

ごみを出さない取り組み、昔の人の物を大事にする精神を込めて、板橋区エコポリスセンターでは「いかけ屋さん」が作られたそうです。祖父たちの「現代のいかけ屋」では、江戸時代と同じく、修理が出来なくなった物を捨てないで、寄付してもらい、使える部品を集めて、また修理の時に活用し、無駄なく修理をしているそうです。

今、ごみが増えていて、そのごみが増えるたびに、自然環境が悪くなっていくと学校で学習しました。

使えなくなったから捨てるのではなく、別の物に再利用されるという、先人の知恵を見習い工夫できるはず。

私は、江戸時代の修理屋のことを調べていくうちに、物を大切にすることというのはごみを出さないこと。それがとても大切だと思いました。

私の住む板橋区には、江戸の人々のそのような思いが込められた「現代のいかけ屋さん」があることがすばらしいと思います。そこで働く祖父は、先人の心を受け継いだエコ職人だと思います。私も物を捨てずに、修理して長く使い、工夫をして江戸の人々の暮らしを見習いたいと思います。

参考文献

石川英輔監修『江戸のおどろきリサイクル生活』すずき出版、2009年

宮田章司ほか『江戸の長屋の朝昼晩』絵本塾出版、2018年

宮田章司ほか『江戸のくらしとリサイクル』絵本塾出版、2019年

縁切榎に願う

板橋区立志村小学校5年 ^{けんじょう しほ}見城 志歩

みなさんは、縁切榎を知っていますか。私は、今回板橋区のことについて調べていく中で、縁切榎という場所がある事を初めて知りました。縁を切るなんて悲しい感じがしたので、どのような場所なのかを知りたくなり、くわしく調べてみることにしました。

縁切榎とは、東京都板橋区本町にある榎の木です。もともとは大六天神の神木だったのですが、榎と榎の木が並んでいたことから、「エンツキ（縁の尽き）」と言われていたそうです。そのため江戸時代にはこの榎の下を婚礼の行列が通ると必ず不縁になると言われ、やがて徳川家に嫁いだ五十宮（いそのみや）、楽宮（さぎのみや）の行列も、この木の下を通るのをさけたとされていたそうです。

また、この木の皮や葉を相手に知られないように服用させると、そのものと縁が切れるとも言われていたそうです。

私は、縁切榎がこんなに古くからの歴史があったことにとってもおどろきました。

現在の縁切榎は三代目であり、一代目は明治の大火事でなくなり、二代目は昭和40年代に切り落とされてしまったそうです。

そして、現在の縁切榎は人間関係やお酒、ギャンブルや病気など様々な悪縁を断ち切ってくれるとされ、多くの人がおとずれる関東最強の縁切りスポットと言われていることが分かりました。

そんな関東最強とも言われる縁切榎は、私が思っていたよりもはるかにすごいと思い、どんなところか自分で行って見てみたいと思ったので、実際に見に行く事にしました。縁切榎は、板橋区本町の商店街の途中にありました。私が想像していたより少し小さな神社でした。鳥居のそばと奥に緑の榎が生えていました。私がお参りしている間にもたくさんの方が次から次へと来ていて、とてもおどろきました。

しばらく縁切榎をながめていると、となりのおそば屋さんで、縁切榎を管理しているという、おじいさんの話を聞く事が出来ました。鳥居の横にある二本の榎は別々の木で、縁が切れることを意味していて、奥にある根本がつながった二本の榎は、縁を結び、いつまでも仲良くいられる榎だと教えてくれました。

そして、縁を結ぶ木は全国でもなかなか見つからなかったけれど、長野県の松本市で見つけ、板橋区の職員の方と運んだそうです。私は、そんなに苦労して見つけたことがすごいと思いました。

さらに、切り落とされてしまった二本の木の一部もかざられていて、おじいさんがとても大切に思っているんだなと感じました。おじいさんは、いつも縁切榎においのりをしているため、病気にも無縁で一度も寝込んだことがないと言っていました。

私は絵馬に、新型コロナウイルスが収束して、世界と新型コロナウイルスとの縁を切っ

てほしいという願いを書き、家族みんなでおいのりをしました。

私は今まで自分が住んでいる板橋区について調べたことがほとんどなかったので、今回の縁切榎のような全国でも知られている場所がある事を知る事ができ、とても良かったです。そして、縁切榎と最初に聞いた時は、なんだか悲しい感じがしていたけれど、縁切榎について調べたり、実際に行ってみたりしたことで、縁を切るだけでなく、縁を結び縁を大切にする場所であることが分かり、とても安心しました。自分の住んでいるところにこんなにすてきな場所があるのだと思い、ほこらしくなりました。

新型コロナウイルスとは縁を切りたいけれど、今、会いたくてもなかなか会えない祖父母や親せきなどと、また以前のようにたくさん会って、仲良くできる日が一日でも早く来るといいなと思いました。

〈縁切榎の写真〉



昔の夏の暑さをしのぐヒミツ？

～昔の人々はどうやって暑い夏を乗りきっていたのだろう。～

板橋区立高島第六小学校5年 なかし いちか 中地 一珈

暑い暑いと、言いながら夏を過ごしていたわたしですが、そもそもエアコンのない時代、昔の人々はこの暑さをどのように乗りきっていたのか、ふと不思議に思って調べることにしました。どんな秘密があるのでしょうか。

調べた方法は、そう祖母から話を聞いたり、板橋区立郷土資料館や図書館で本を読んだり、インターネットも使って調べました。

まず初めに、そう祖母へインタビューすることにしました。コロナ禍なので、電話でお話を聞きました。

「昔はきびしい夏をどうやってすごしたの。」

と質問しました。

「うちわしかなかったよ。」

「えー衝撃的!!」

「昔は川の水もキレイで冷たくて泳いでいたよ。スイカも川で冷やしていたよ。」

「ねるときはどうしていたの。」

と、ねるときについて質問しました。

「夏の夜には蚊帳をつっていたよ。ばけつに草をいれ、もやしてそのけむりで虫をいれないようにしていた。ニッキの木の根（皮）を、かじってたよ。夕方に、庭さきに打ち水をしたたり、すだれを使っていたよ。」

という話をひいおばあちゃんから聞くことができました。わたしは、エアコンがないということが分かっていたのですが、冷ぞう庫がないということは知りませんでした。イメージしていたものと違っておどろきました。

さらに、くわしく調べるために「板橋区立郷土資料館」に行きました。そこでは歴史を研究している学芸員さんが、昔の夏のくらしぶりが分かる資料がないかと、さがしてくれました。

そして、夏を乗りきるくらし方が分かってきました!!まず①うちわですが今の紙とは違って和紙で、できたものです。次に②足水や打ち水です。土に水をまいていて、コンクリートではありませんでした。③川です。川は泳いで遊ぶだけではなく、食べ物を冷やす役わりがありました。④蚊帳（かや）は夏の夜や、赤ちゃんのお昼ねの時など虫よけに使っていました。⑤氷です。昔、氷はきちょうなものでした。冬にできた氷を、夏になると切りだしてかざるなどして、涼んでいたそうです。⑥風鈴の音。耳から涼しさを感じていました。⑦夏野菜。トマトやキュウリを食べて、体温を下げていました。⑧花火です。江戸時代の浮世絵で様子を見ると、やかた船から花火を見上げる人が描かれていました。⑨木造

建築の家です。板橋区立郷土資料館には、江戸時代後期に建てられた古民家旧田中家住宅がありました。ひいおばあちゃんが教えてくれた蚊帳がつってあり、実際に見ることができて、うれしかったです。日よけの大きなひさしがあって、マンションより涼しそうでした。⑩ゆかたなどの服です。他にも涼しいくらしのアイデアがいっぱいありました。

そこで、わたしも昔ながらの夕涼みをやることにしました。8月19日、夕方の4時ごろ夕涼み体験をはじめました。コンクリートなので、39℃になっていました。昔ながらの涼のとり方として、うちわと足水に風鈴の音を聞きながら、氷で冷やしたスイカを食べました。それから最後に打ち水をすると、35℃まで下がりました。つま先から頭までひんやりしてとても気持ち良かったです。

最後に、調べて分かったことをまとめます。昔の人々はいろいろな工夫で夏を乗りきっていたと分かりました。まず最初にひいおばあちゃんから「冷ぞう庫はなかった。」と話を聞いた時は、一番おどろきました。昔の人々のくらしは不便だろうと思っていたが、くわしく調べてみると涼しいくらしのアイデアが、たくさんあったのです。自然の力だけで乗りこえてきた昔の人々はすごいと思いました。エアコンはあまりエコではないので、たまにはわたしも昔ながらの涼しさを感じて楽しもうと思いました。今コロナ禍で大変な思いをしているけれど、おさまればがんばった人々として未来の人々が、コロナをどうやって乗りきっていたのかだれかが調べてくれると、いいなと思います。歴史を調べてみると発見もあって楽しかったです。

ミニチュア土器は何に使われたか

磐田市立磐田西小学校5年 ^{さとう みちひろ} 佐藤 迪洋

磐田には国指定重要文化財がある。古墳時代の「明ヶ島古墳群」で出土した土製品。展示会で公開されると知り、早速見に行った。

展示されていたミニチュア土器



(写真：佐藤迪洋 撮影)

土製品は、人形、楽器、食器、武具、アクセサリなど様々で、ぼくの手のひらに乗りそうなほど小さな物ばかりだった。古墳時代の子供が遊んでいたおもちゃのかなと思ったが、「祭に使われたと考えられている」という事だった。研究員さんは「現在の説をくつがえす新発見があれば面白いね」とも答えてくれた。

色々知りたくなり、小さな土製品について本やネットでたくさん調べた。磐田ほどたくさん出土した所は他にないものの、全国的に出土していて、「ミニチュア土器」と呼ばれていると知った。何に使われたかはナゾとされているが、祭説が有力だという。

でもぼくは、子どものおもちゃだという考えがすてきれない。ミニチュア土器を見て、つい手に取って遊びたくなったから、古墳時代の子供にとってもみ力的だったにちがいない。ミニチュア土器には子供にしかわからないみ力があるのかもしれない。ぼくは将来研究員になりたいが、古墳時代の子供の心がわかるのは子供の時だけなのかもしれないと思い、ミニチュア土器を目にしたこの想いと考えを書き残しておこうと考えた。これが将来、古墳時代のナゾを解くカギになるかもしれない。

まず、様々な本やネットにのっている見解から、おもちゃではないとされる理由を挙げ、それに対するぼくの考えをまとめた。見解は大きく分けて2つあった

説1 「祭のもり土から出土しているから祭用」

ぼくは全国の古墳時代の祭を調べた。ミニチュア土器をお供えし、大人が祈りをささげる想像図もあった。そこに子供の姿はない。実際ぼくの地域には、大人の男しか参加できない祭がある。そして全国的にも、女性や子供が参加できない祭は珍しくない。子供が参加できなかったとしたら、子供は待たねばならない。

ぼくは、祭に直接使われていたというよりも、祭と同時に使われていたと考える。どういう事かという、古墳時代にもキッズスペースのようなものがあり、大人が祭に参加している間、このおもちゃで子供たちが遊んで待てるようにしていたのではないかと考えた。だから、祭のもり土から一緒に出てくる事になる。

大人は、小さかった時を思い出してほしい。親が用事をすませている間、待たされた事はないだろうか。ぼくも「ちょっと待っててね」と言われ、1時間待たされたこともある。大人は用事があるから、まさか同伴の子供がこれほど退屈するとは思っていないのだろう。子供を目の前にし、あわてて何かを用意する。例えば折紙。主催者が折り紙をくれて、折り紙をして待つ事も結構ある。古墳時代に折紙はないから、葉っぱを折ったりしていたかもしれない。葉っぱは分解してしまうから証拠は無いが、同じ様な感じだったとも考えられる。折紙もない時、大人が「これ使って」と渡してくれる物がある。それは、紙とペン。絵をかいて待つ事もよくある。古墳時代なら、木の棒で地面に絵をかいていたかもしれない。何も無い時は、何か見つけたくて周りを散歩する。大人を困らせたいのではない。でも、大人には「じっとしてなさい」と言われる。そんな時、キッズスペースがあると安心して大人を待つことができる。家には無い様々なおもちゃがあって、親が戻って来たとしても、楽しくてなかなか帰れない位だ。古墳時代も、待っている子供のために、参加できない祭の時はおもちゃを用意していたとも考えられる。

説2「精巧すぎて、おもちゃとはいえない。」

ぼくはむしろ、精巧だからこそおもちゃとして喜ばれると思う。子供の目はごまかされない。ぼくが小さい時、母はたまに100円ショップで車や電車のおもちゃを買ってくれた。形は車や電車だが、子供のぼくにも「オモチャ」に見えた。トミカやプラレールなど、実物を縮小した物とは大ちがいで、高学年にもなれば子供だましのオモチャでは最早遊べなくなる。「精巧だからおもちゃではない」というのはぼくら子供に失礼な話で、古墳時代の子をだますこともできなかったと思ってほしい。精巧だからこそ、子どもが喜ぶおもちゃと言えるのだ。

では、ぼくが子どものおもちゃだと考える理由を述べよう。3つある。

①大きさや形が適当

ぼくの手ひらに乗りそうな小さな物で、子供が使いやすいと思う。大人の道具は大きすぎて使いづらいし、実際落として割ったりケガした事もある。子供用に作られてはいないのだ。でもミニチュア土器は小さくて丸みがある。例えば土人形ははにわと違って丸みがあり安全だし、うでを広げたように作られていて、にぎりやすく、落とすにくい。子供用に安全に考えられていて、おもちゃとして完ぺきだ。

二子塚古墳のはにわ おもちゃ？土人形



丸みがあって、にぎりやすい



写真：いわた文化財だより 第156号、第100号、第97号

②種類が豊富

人形や土器だけでなく、イノシシや鳥などの動物、楽器やアクセサリ、食器もあり、バリエーションが豊かで子どもがあきることがない。ぼくの妹はぬいぐるみやリカちゃん人形でよく遊んでいるが、それと同じように、土人形で遊んでいたのではないだろうか。人形で遊ぶには、様々な小物が必要になる。料理セット、アクセサリなど、あればあるほど世界は広がる。それと同じで、土人形のままごとや、イノシシの世話ごっこをしていたのかもしれない。武人には武器・よろいもあって、ガンダムのように戦わせて遊んでいたのかもしれない。出土品の種類の多さを見て、おもちゃとして完ぺきだと感じた。

6000点以上。出土した種類も数も日本一！ 犬、イノシシ



写真：磐田市HP

人物と楽器・動物たち



たくさんの武器・武具



写真：いわた文化財だより 第20号

ままごと用？しゃくし



おわん



つぼ



紡織具



写真：磐田市HP

③「カラーバリエーションも？」

顔料がついていたミニチュア土器もあるという。子供が目にも喜ぶものを作ったのではないか。例えば、料理に使うお玉は鉄でできていて、実用的だが色も形も面白味はない。一方、妹が持っているおもちゃのお玉はプラスチックで小さく、色は赤、青、黄、白、ピンクの5色もある。子供用おもちゃはカラフルで、遊んでいてあきない。古墳時代のカラーバリエーションもいくつかあったかもしれない。

おもちゃ説は、想像でしかないのだろうか。ほくは、夏休み中さらに調べ続けた。過去の新聞も数社調べているうちに、とうとう1つの記事を見つけた。それは、奈良県にある安土桃山時代の遺跡で、子供の墓にミニチュア土器と一緒に埋葬されていたという記事だ。

写真を見ると、手のひらに乗る位の犬や器のミニチュア土器が写っていた。

墓から一緒に出土している＝ほぼ確実だ！時代は違うが、少なくとも「ミニチュア土器が子供のおもちゃとして使われていた」証拠だ。

絵：奈良県の遺跡から見つかった犬型土製品（佐藤迪洋スケッチ）



「大人は忘れてしまったかもしれない子供の気持ち」を中心に考察してきたが、ほくが大人になれば、ミニチュア土器を作ってあげた古墳時代の大人の気持ちがわかるかもしれない。どんな気持ちで、どんな目的で、子供たちにミニチュア土器を作ってあげたのだら

う…。きっと、子供の立場だけでも、大人の立場だけでも、明らかにはできないと思う。だからこそ、ぼくが大人になってもこの研究を続けたい。

主な参考文献

- 磐田市埋蔵文化財センター 編『東部土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』
磐田市教育委員会、2003年
磐田市教育委員会「いわた 文化財だより」第20号、41号、97号、98号、100号、号外、
136号、156号、172号、188号、197号
- 奈良市埋蔵文化財センター「ミニチュア品を埋葬した墓見つかる」
三内丸山遺跡年報「三内丸山遺跡出土のミニチュア土器に関する予察」
九州歴史資料館「江戸時代にもあったまごど遊び」
鹿児島大学総合研究博物館「祭祀と成川式土器」
「島根県発掘調査通信」第10号
三重県埋蔵文化財センター「小牧南遺跡第2次」
前原市教育委員会「文化財ニュース1」
福生市「福生の歴史6 縄文時代のころ」
毎日新聞2021年2月17日「中世の子どもが愛用した犬の人形か埋文センターが発掘結果
展示」
奈良新聞2021年3月2日「遺物から見る歴史 - 円筒埴輪、ミニチュア土器など」
朝日新聞2021年3月5日「副葬のおもちゃ？親の愛」
中日新聞2018年9月24日「危険な祭り 死亡事故」
朝日新聞2018年4月12日「女人禁制」そもそもどうして生まれた？」
読売新聞2018年5月20日「土俵は女人禁制…歴史が教える意外なワケ」

主な参考URL

- 磐田市 国指定文化財
https://www.city.iwata.shizuoka.jp/sports_midokoro/bunkazai/kunishitei/index.html
- 文化庁 文化遺産オンライン 静岡県明ヶ島古墳群出土土製品
<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/277816/1>
- 磐田市の明ヶ島古墳群とは
https://blog.goo.ne.jp/tommz_1938/e/425afa837631f70e5a09df878abc2f9b
- 静岡県の遺跡・古墳・城跡ガイド
<http://blog.livedoor.jp/shizuokak-izu/archives/3630199.html>

鹿嶋市 古墳時代の集落群

<https://city.kashima.ibaraki.jp/site/bunkazai/50030.html>

四条畷市立歴史民俗資料館 奈良井遺跡

<http://www.shijonawate-rekishi.jp/iseki/narai/narai.htm>

福島県文化財センター 小さな土器大集合

https://www.fcp.or.jp/mahoron/tenji/2003/1_10.htm

青森県世界遺産登録推進室「縄文遊遊学第53回 小さな土器」

https://www.lib.fussa.tokyo.jp/digital/digital_data/connoisseur-history/pdf/0103/0001/0010.pdf

長浜市 ながはまの文化財 <https://www.city.nagahama.lg.jp/0000000247.html>

八尾市立埋蔵文化財センター

http://www17.plala.or.jp/zyao_maibun/center/index/hatukutuseika.files/M_H19_HT_index.files/H19ht04_ks41.htm

弥生・古墳時代の祭祀 <https://www.harc.or.jp/iseki/f25/p01.htm>

お祭りの歴史 https://www.sonami.co.jp/fan_contents_03.htm

日本折紙協会 おりがみの歴史 <https://www.origami-noa.jp/>

他

◆事務局審査担当講評

【高校生の部】

今回、高校生の部には個人作文・研究11編、共同研究4編の合計15編の応募がありました。それらについて、教育委員会事務局の学芸員と区立公文書館の公文書館専門員の計6名で査読を実施したのち、審査会にはかり5編の受賞を決定しました。

佳作の「地蔵盆が地域に果たす役割—宮川地蔵通りにおける地域コミュニティ構築に着目して—」は、主に関西地方の各地域で行われる祭祀である地蔵盆について、近年、地域コミュニティ形成の場として研究されてきた点に着目し、兵庫県の宮川地蔵通りの地蔵盆を事例に、調査・分析を行った論考です。現地での聞き取り調査をもとに、専門性の高い先行研究を踏まえて論が展開されており、地蔵盆という宗教行事が地域社会において果たす役割を社会的切り口でまとめられている点が評価されました。

「高島平の歴史と地名の謎」は、筆者の地元である板橋区「高島平」の地名の由来について歴史的な視点から検証した論考です。関連する行政資料を活用して綿密な文献調査を行い、一般的な説だけでなく、対立的な説も救い上げて考察することで立体的な論理展開がなされています。

「湯山家文書からみる報徳仕法と地域金融」は、地域で発見された江戸時代の古文書について、史料調査・整理作業から携わり、解読作業と史料分析を踏まえて、財政面から地域の実態や特性を明らかにした共同研究です。一次史料を調査対象とし、当時の小田原藩の農村復興や財政再建政策への位置づけを試みた点が評価されました。

「日記帳から読み取る「湯山家」の生活」は、戦後直後の地域史を未翻刻史料から明らかにした共同研究です。文書の整理から解読までを一貫して取り組み、日記史料をもとに戦後の生活実態を読み取り、当時の地域における日常生活の一端を解明しようとする試みが評価されました。

「アイヌ民族音楽による自然災害の伝承～度重なる厄災を乗り越えてきたアイヌの祈りに学ぶ～」は、アイヌ民族の音楽や楽器から自然現象の表現などを学びとり、比較検討を試みた共同研究です。筆者らの日頃の演奏体験を通して得た西洋音楽の知識をベースに、北海道を訪れて体験し学んだ内容をまとめ、アイヌ民族音楽の表象を読み解こうとする方法に独自性が認められました。

【小・中学生の部】

今回、小・中学生の部には470編の応募がありました。とりわけ小学生からの応募は464編で、櫻井徳太郎賞が創設されて以来、最も多い応募数となりました。昨今の新型コロナウイルス感染症の蔓延状況下において、博物館や図書館施設の利用や、調査方法などに大きな制限があるにもかかわらず、作文のレベルは全体的に高く、評価をする上で拮抗するものが多く見受けられました。これらの作文を高校生の部と同様の査読のもと、三次にわたる候補作の絞り込みを実施したのち、審査会にはかり、17編の受賞を決定しました。

最優秀賞の「りゅうじんはなぜあかつかたためいけにやってきたのか」は、日頃の遊び場である赤塚溜池の龍神伝承に興味を持ち、家族と図書館や資料館に足を運んで調査した作文です。文献に記された龍の神としての役割を、赤塚地域の歴史の推移に照らし合わせて考え、自分なりの推論を提示している点に好感がもてます。調査をする中で新たに生じた疑問について、異なる方法でさらに追究するなど熱心な姿勢や、多角的な視点が評価されました。

優秀賞の「ふみきりごやのしょうたいをしらべる」は地元の踏切という、身近でありながら見過ごしてしまいそうな事物に焦点を当て、関係各所への聞き取りや文献調査を行った作文です。踏切についての知識を活かし、その役割や成り立ち、将来について考え、自分の言葉で調査結果をまとめています。テーマの独創性ととも、情報収集力の高さが評価されました。

「沖縄の言葉と歴史について」は、沖縄の歴史と日本への同化政策について、祖父の体験談を交えながら問題提起した作文です。とくに言葉の問題を中心に据え、親族の体験を地域の歴史の流れの中で捉えようと論を展開しています。自身のルーツである琉球の方言を大切にしようとする筆者の熱意が伝わってきました。

「暮らしを支える川とその歴史」は、通学路となっている暗渠、出井川の歴史について流路の実踏や文献調査を行った作文です。人と水・河川の関わりを古代から現代まで通覧し、出井川が暗渠になった理由を鑑みて、人が生活するうえでの将来への展望について意見を述べています。地域史への探求姿勢の高さが感じられました。

「どンドン焼きのこれから」は、母親の実家で出会った「どンドン焼き」の行事について、筆者が母、祖母からの聞き取りを通して興味を深めたことをきっかけに書かれた作文です。文献やインターネットから全国的状況や行事の意味を調べ、実際に携わる方々への質問事項を準備し、聞き取りを行っています。目的に応じた調査方法を選択している点や、SDG'sなど現代的な課題を踏まえて自分の考えが伝えられている点が評価されました。

「ぜんこくの「どれにしようかな」」は、全国的に行われている数え歌「どれにしようかな」の歌詞の違いについて興味を持ち、聞き取りやSNSを介した調査の結果をまとめ、分析した作文です。その中で地域差だけでなく世代間の差異に気付き、数え歌が親から子ではなく、同世代間で伝播することを自分なりに考え指摘しています。テーマ設定や、SNSを有効活用した調査成果に独創性が認められました。

「ぼくのたてあなしきじゅうきょ」は、近隣の公園で見た堅穴住居に興味を持ち、身近な材料を集めてそれを再現した作文です。文献調査をもとに模型を制作するなど、その構造を追体験し、堅穴住居を作って住んでいた人たちの労力に思いを馳せています。確かな調査力と柔軟な発想力が感じられました。

「もろ山にむかしあったけつあぶりぎょうじとそれにまつわるでんせつ」は、地域に残る習俗について興味を持ち、調査を行った作文です。地域的な分布や呼称の相違、伝承との関係性にまで視点を広げ、探求しています。民俗学の調査の基本である聞き取り調査を広範囲に行い、簡潔にまとめている点が評価されました。

「ソメイヨシノという桜はどこで生まれたのか」は、身近なソメイヨシノを題材に文献調査や聞き取り調査を行った作品です。実際にソメイヨシノに関連する場所を訪れ、地域の歴史や対象への思いを深めています。調査成果を簡潔に整理して、自分の言葉で分かりやすくまとめており、好感が持てました。

「上板橋子育地蔵について」は、筆者の生活圏にある子育地蔵の来歴や現況について、図書館で調べた内容に加え、実体験を踏まえて書かれた作文です。現地見学では、子育地蔵を大事に思う地域の人々のあたたかさに触れています。文化財を地域の暮らしに根づく身近なものとして捉え、かつ守り伝えていくべき大切なものとして認識している気持ちが伝わってきます。

「たった一つの車田植」は、国指定重要無形民俗文化財である車田植について、佐渡市の事例に注目し、この習俗を守っている人への聞き取りを行い執筆された作文です。特にその習俗の意味に

ついて、既存の資料や研究からではなく、自身の疑問から生まれた素朴な問いを直接に話者に求めている点に独自性があります。現在、全国的にも数例となった習俗について、保存・継承への思いが情緒豊かに綴られています。

「井戸にはれきしとゆめがある」は、人の生活に欠くことのできない水を供給した井戸に興味を持ち、調べたことをまとめた作文です。調べる中で生じる疑問について一つずつ調査し、学んだことを踏まえて改めて井戸を見学するなど、積極的な姿勢が見られます。学びを得ることで、これまでの何気ない光景が新たな気づきのきっかけとなることを見出した点は秀逸です。

「れきしをつなげ!!成増里神楽」は、筆者の祖父をはじめ、代々の家族が携わってきた成増の里神楽について興味を持ち、祖父や父から聞き取りをしながらまとめられた作文です。調査を通し、過去も現在も、伝統芸能では後継者に関する悩みが最大の問題であることに気づき、筆者自身も里神楽に携わりたいという表明をしています。将来の守り手として、心から期待をしています。

「江戸のエコを見習って」は、「いかけ屋さん」として働く祖父の仕事から、江戸時代のエコに興味を持ち、当時のリサイクルについて調べまとめた作文です。鑄掛屋以外の職人についても調べたり、修理業をとりまく業種にも目を向けています。学校で学習した3Rのことをうまく盛り込み、現代の生活と比較して考えられている点が優れています。

「縁切榎に願う」は、縁切榎という地域の名所について文献調査や聞き取りを行った作文です。現地を実見し、地元で縁切榎を守る方々への聞き取りを行い、既存の資料には記されていない情報についても調査しまとめています。江戸時代以来の名所を、現在の社会情勢から見つめ直した点が評価されました。

「昔の夏の暑さをしのぐヒミツ?～昔の人々はどうやって暑い夏を乗りきっていたのだろう。～」は、エアコンが登場する前の段階での、昔の夏の過ごし方について調べた作文です。祖母への聞き取りに加え、図書館や資料館での調査など、様々な方法を用いて調べられています。調査をもとに、昔の夕涼みを実体験し、それを楽しみながら昔の暮らしの工夫を見出す姿に説得性が感じられます。

「ミニチュア土器は何に使われたか」は、ミニチュア土器の用途について自ら仮説を立てて調査し、独自の視点から論じた作文です。仮説に関連する文献を収集し、それに対して学問の枠に捉われることなく自身の考えを展開しています。筆者の考古学へのあふれんばかりの熱意と、研究対象への深い思い入れが感じられます。

以上、今回も例年を上回る応募数により、多数の作品が最終審査の対象となりました。惜しくも入選には至らない作品にも、印象深いものが多く寄せられましたことをここにお伝えいたします。

作品の中には、昨今の情勢を踏まえてか、日頃の遊び場や通学路など生活圏の中で関心をもった物事のほか、親族の体験や郷里に関する事など、身近な事象から調査研究を進めていった事例が多く見られました。遠出はできなくても、地元の図書館や資料館を活用し、地域の人たちの話を聞くなど、意欲的な調査の成果が表れていました。また、学校教育におけるデジタル化の進展も相俟ってか、民俗調査におけるインターネットやSNS等の活用など、事務局としても学ばせていただく点があり、次世代の研究活動における大きな可能性を感じました。今回で20回を数えた櫻井徳太郎賞の作品にも、各時代のテーマや調査方法などの変遷が反映されており、当賞の在り方を考えさせられます。

最後に、調べたり学んだりする過程で出会い、お世話になった人々への感謝を忘れず、その方々とのつながりをこれからも大切にしていってください。次回も独創性あふれる作文が多数応募されることを期待しています。